みんなちがってみんないい

Ｒ２その（４）　指導教諭　木村　栄

今回は自閉スペクトラム症（ASD）についてお話します。

自閉スペクトラム症の中核をなす障がいは、「社会性の障害」「社会的コミュニケーションの障害」「常同行動と限定的な興味」の３つです。

昨年は「社会性・コミュニケーション能力」を１つにまとめてお話していました。

以前は、その特性によって「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障害」、など大きく５つに分類されていましたが、２０１３年に新版の「精神障害の診断と統計マニュアル（アメリカ精神医学会：通称DSM-5）にあわせて、日本でも総称が一本化され、「自閉スペクトラム症」になりました。これは前回説明したADHDも同様に変更がありました。

スペクトラムとは、「連続体」という考え方です。ことばや知的な遅れを重複している典型的な「自閉症」から、知能の遅れをどんどん軽くしていき、ほとんど知的な遅れがなくなった状態が「高機能自閉症」であり、そこから言葉の遅れを軽くしていき、言葉によるコミュニケーションにほとんど問題のない状態が「アスペルガー症候群」であると考えると分かりやすいと思います。

特性の程度や違いによって表出する個人の特性の差異は大きいけれど、根幹にあるものは同じであるという考え方になります。

前置きが長くなりましたが、自閉症は脳から脊髄までの中枢神経系に、何らかの障がいがあるためにおこると考えられています。LDやADHD同様、はっきりした原因は見つかっていません。自閉症も生まれつきの障がいであり、他の病気のように、現代の医学では薬や外科的治療で完治することはないと言われています。

自閉スペクトラム症であると公言している有名人も多くいます。今もっとも有名な歌手の一人でもある、米津玄師さんもその一人です。

彼は幼い頃からずっと周りとの違和感を感じていたようで、友人とのコミュニケーションも苦手だったそうです。音楽と出会い、そこに自分の居場所と可能性を見つけたのですが、芸術学校時代にバンド仲間とうまく折り合いを付けられず、結局バンドは解散し、学校も辞めてしまいます。

その頃、自閉スペクトラム症の診断を受け、今までの違和感がすとんと腑に落ちたそうです。二次障害として鬱を発症するなど、かなり苦しんだようですが、一人で音楽制作をするスタイルに戻り、今の成功を掴みました。

先に述べた自閉スペクトラム症の特性の中で、「社会的コミュニケーション能力」に問題があり、学校や家庭、地域などの社会生活で困り感を抱えている子どもが多く見られます。たとえば、人が多い場所が苦手で、話しかけても返す言葉が出なかったり、感情や思いを表に出すことが苦手だったりして、喜びや悲しみを相手に上手く伝えることができません。

また、ものごとの変化にうまく対応できないことが多く、スケジュールの変更が受け入れられないことや、初めての場所や初めて経験することに不安を感じ、突然泣き出したり、混乱して癇癪(かんしゃく)を起こしたりすることもあります。

「常同行動・限定的な興味」とは、心を落ち着かせる理由などから、同じ行動を何度も繰り返すとか、一つのものに強いこだわりをもつという特徴です。

ただ、こうした特徴の表れ方には個人差があり、すべての自閉スペクトラム症の人に見られるわけではありません。

自閉スペクトラム症に限らずですが、感覚の過敏さをもっている人が多く見られます。

たとえば、水道やシャワーの水が皮膚に当たると、激痛に感じてしまう人もいます。大きな音や特定の周波数に敏感に反応して、不安な気もちになったり、イライラして怒り出したりする人もいます。これは個人差なので誰にでも当てはまるわけではありません。

自閉スペクトラム症の特徴をまとめてみると

- コミュニケーションに何らかの問題がある。
- ことばの発達に、遅れや偏りがある。
- 様々な変化にうまく対応できない。
- 活動や興味の幅が狭く、こだわりがある。
- 音やものごとに対する感じ方が違う。

などですが、LDやADHD、知的障害を重複している場合も多く見られます。

一見すると「わがまま」や「自分勝手」に思われがちですが、決してそうではないのです。

次回はその他の発達障害についてお話します。

「どうとんだ師ろうかしうわ仲良小学校のうくれ考えなえ

「自分の玄関を自分で閉じる能力を発揮できるように、症状が出た時に、自分で対処できるようにしたいと思います。

「友達のみんなは、特別支援学級で学ぶ子どもたちの苦手なことを早くから支援研究校に指定されています。今の育ち方や、困っていることを解決するための支援体制が進んでいるとのことです。

「病院で診断されたことで、原因が分かり、治療や薬の服用などの対処ができるようになったと思います。

「学校は、子どもたちが自分の苦手なことを学ぶ場所であると思います。

「解放感を感じる時間が多くなったことで、自分の苦手なことを学ぶ時間が増えたと思います。

「学校は、子どもたちが自分の苦手なことを学ぶ場所であると思います。

「パパは、子どもたちが自分の苦手なことを学ぶ場所であると思います。

「ママは、子どもたちが自分の苦手なことを学ぶ場所であると思います。

「晴れの日は、子どもたちが自分の苦手なことを学ぶ場所であると思います。

「最大限に持ち前の能力を発揮できるように。

「花開きますように。